

参議院選挙総括交流会開く

地域から組織、政策、運動の再構築を

社会民主主義フォーラムは9月4日（日）午後、東京・中野サンプラザをメイン会場に全国を結んで、参議院選挙総括交流会を開催しました。当日は16都県フォーラムから46名が参加し、厳しい結果に終わった参院選挙を振り返りながら、各都県のたたかいや教訓に学び合い、党強化に向けた課題や今後の展望について交流しました。交流会を通して地域の党組織の確立・強化の課題、自治体議員や党員の意見集約・反映に関する課題など全体で共有することができました。また来春の統一自治体選挙に挑戦する新人予定候補者の挨拶を受け、候補者擁立と全員の必勝、党勢拡大に向けた決意を固めあいました。

●代表挨拶

吉田忠智（参院議員）



参院選の結果は厳しく受け止めなければならない。党は国会議員、後援会中心の運営で現場に根ざしておらず見直すべき課題も多い。安倍元総理が銃弾に倒れ国葬が決定された。しかし旧統一教会問題が暴露され、国葬反対の声が高まり支持率が急落している。

「黄金の3年間」にはならない。他方で前のめりの軍拡議論や原発の新增設などの動きには警戒が必要だ。来年は統一自治体選挙。青森、東京、富山などで新人候補が決定され、全国的に前向きな動きとなっている。それぞれの立場で自治体選勝利の取り組みを進めよう。

高田良徳（香川県会議員）

合流して1年半が経過。党内文化の差、選挙の進め方の相違など戸惑いながら活動を進めてきた。社会民主主義を広げていかなければ合流の意味はない。強化につながっていないとすれば何が課題なのか、議論の



ポイントとなる。地域活動や党の支部組織のあり方など意見を上げていくことが必要。

自治体議員もNWの中で主導権を確立することが求められる。立憲民主党の選挙総括の中でも、地域活動、党の組織力などに触れられている。

「不断の改革が必要」とも指摘されている。こうした点もふまえて前向きな議論をお願いしたい。

●国会議員挨拶

吉川はじめ（衆院議員）

第2次泉体制ば国対がベースになる。第一に政府・与党と正面から対峙すること、第二は野党第一党としてのリーダーシップの回復だ。一点目に関しては国対ヒヤリングを再開しほぼ毎日取り組んでいる。「批判ばかり」との批判



立憲民主党が国葬に関する質問書を提出

安倍元総理の国葬に、十分な説明責任が果たされていないとして、13日岸田内閣への質問書を提出しました。15日中の文書での回答を求めています。

1. 国の儀式としたことの是非—内閣葬ではなく「なぜ国葬儀なのか」。実施は行政権に属するというが「法的根拠」はない。「手続きの不十分さ」は議会制民主主義を揺るがす。
2. 費用について—16.6億円の試算の他に要する経費はないか。人件費は算出可能であり事前に公表すべき。
3. 旧統一教会との関係について—安倍元総理との関係について調査が必要。関係者は閣僚や党三役の地位にとどまることはふさわしくない。



には屈しない。二点目、とりわけ野党共闘は「政策・テーマ別連携主義」という考え方で臨んでいく。

野党がきれいに一つにまとまれる状況ではなく、テーマ別・課題別に、共産党ともあるいは維新とも組みながら、リーダーシップを確立していく。早速、総理入りでの国葬問題の議論が始まる。

●参議院選をたたかって



山登志浩 (富山県選挙区)

予想はしていたが厳しい結果に終わった。多くのカンパや支援に本当に感謝申し上げる。不退転の決意で富山に移り、又市前参議院議員の後継として、富山で国政を目指す決意で活動を継続していくことは明確にしておきたい。

党の存在感が薄く有権者に選択肢として認識してもらうには力不足という現実がある。県組織は昨年立ち上げたが行政区単位での組織や活動が組織できていない。議員や常幹は党内で議論や活動しているが、党員には見えず、何をやっているのかという批判もある。こうした問題を改善していかなければならない。

●各県からの報告、質疑

川村訓史 (埼玉)

立憲県連と労働組合との連携を重視し、労組の意向も聞きながら候補者選対に労働組合へ具体的な要請を行うべきだと申し入れた。これが労組の奮闘にもつながり、フォーラムとの関係も密接になった。また市民団体と立憲の政策について懇談を行った。批判やかなり厳しい意見も出されたが、こうした不満を率直に聞

いてもらう場が、市民活動家の行動につながった。

兼古博行 (千葉)

総選挙の反省から「指示待ち」の克服と「労組との連携」を重視し、地域の労組とタウンミーティングなどで候補者となつて努力をしてきた。また労働組合を交えた交流に候補者や県連幹部に来てもらい意思統一する場も作ってきた。こうした努力の中で、この秋に立憲県連として平和の集いを開けないかという相談も始まった。課題は高齢化による運動量の低下。

羽田圭二 (東京)

2名擁立し、1区のみが蓮舫候補で、他の24区は松尾候補で取り組んだ。立憲は現役・中間層を取り込むことができず、維新や参政党に流れたのではないかと。組織面では日常的に要求や声を集約する場がない。そしてこうした世代への政策提起がどこまでやれてきたか課題が残る。この点を反省し、統一自治体選挙では学校給食の完全無償化を打ち出そうと考えている。

浅田保雄 (東京)

社民フォーラムが支援した松尾候補は過労死、賃金、教育の無償化を訴え、共感が持てた。野党共闘への議論が様々あるが、総括会議で都連幹事長は、「自公」と「立共社れ」のトータル票は拮抗しており今後も野党共闘で取り組むとのスタンスを打ち出していた。フォーラムは、縁の下から党を支える勢力だと、その評価は高まっている。自信をもって取り組み強化を。

清水哲男 (富山)

維新や参政党が自民党の補完勢力だと有権者には理解されていない。労働組合も強弱はあるが以前と比べ支援・投票の取り組みが不十分ではなかったか。労組内において政治を意識した活動が重要になる。そうした中でも連合やいくつかの産別で専従派遣をしてくれた。立憲は野党第一党としての訴えが薄く、今後福祉、医療、教育政策など前面に出すことが必要。

高田良徳 (香川)

立憲役員は23人で内19人がフォーラムの会員。1区は小川後援会、2区3区はフォーラムが中心となつて動いた。できることはすべてやったが社民票の上積みにとどまり合流による底上げにはつながっていない現実がある。政策面では、物価高は各党とも訴えているし、金融政策から説明が求められるようでは課題が

荻野きよたかさん 富山県・氷見市議会議員選挙に挑戦

社会民主主義フォーラム前事務局次長の荻野きよたかさんは10月23日(日)告示、30日(日)投開票の富山県・氷見市議会議員選挙への立候補を決意されました。自治体政策研究会事務局長として長年にわたって活躍され、今回「人と心が地域でつながる社会」「誰もが安心して暮らせる氷見市」を目指して市政へのチャレンジです。ご支援よろしくお祈いします。

■連絡先／荻野きよたか後援会 TEL：0766-78-1041



残る。影響力を持って進められたかが反省点だ。



飯田正美（茨城）

立憲現職が引退し、候補者は連合（U Aゼンセン）の女性候補で党は推薦となった。組織的取り組みにならず、昨年総選挙より会員の取り組みは厳しかったか。良かったことは1区暫定総支部（先に合流した県議が暫定支部長）で全党員集会を開いて意思統一をと要請し、県連幹事長も参加したこと。9月末には吉川衆院議員を招いて政治セミナーを開くことにしている。

辻隆一（宮城）

相手は野党統一候補で当選しながら自民党に行った現職4期の議員。精一杯取り組んだが、知名度などハンディが大きかった。維新は10%を超え、参政党も5%を超えた。統一自治体選でどう対峙していくか問われる。特に若い人への対応が求められる。物価高はどの政党も訴え違いが分かりづらかった。今後党内では組織のあり方、大会の持ち方など課題となる。

石田寛（秋田）

今回は選挙区も比例区も目標の半分も取れず惨敗に終わった。総選挙では初めて2区で勝利したが、枝野代表辞任で我々には違和感が残った。総支部はあるが執行委員会がない、県連は議員のみで構成し課題は多い。できることから組織を作り中央に反映させることが大切。来年の自治体選もそうだが「4年計画」など長期的な計画で取り組まなければならない。

平原祐一（島根）

地域組織については県連とも協議し少しずつ立ち上がっているところ。選挙では労働組合に対する要請ができていない。連合など政党からのお願いをきちんとすることが大切だ。社民主義を持ち込むということだが、今回の防衛費についてのパンフは、「ぜひ応援を」とは頼めない内容で組合員に下ろせなかった。政策立案にどのように関わってきたか教えて欲しい。

守永信幸（大分）

選挙区、比例区とも広報物が遅かった。立憲がどういう政党か、有権者は立憲に何を求めているかなどが、分かる、伝わるような社会新報みたいな広報ツールが必要だ。社民党首が村山さんと会った。大分には思い入れを持つ人が多く、社民に一票という人も多かったのではないかと。大分では「社民フォーラム」の名称は使わない。社民の払しょくこそ求められている。

遠藤吉久（山形）

憲法、外交安保、生活安全保障の訴えだが、ウクライナ問題で鈍ったし、消費税5%も財源含めてインパクトに欠けた。維新は改革、参政はオーガニックなど、「一点」が受け入れられた。立憲には立ち位置の明確化が必要で、「非正規労働と弱者」に徹底的に寄り添うことが課題、原発の新增設反対も同様だ。2区3区に組織がなく暫定ということで取り組み始めた。

渡辺敏雄（福島）

候補者は5者協議（立憲、国民、社民、県議会派、連合）で決定。今回は立憲が提案し、結果として無所属に。マスコミアンケートなど他党に遠慮してトリチウムや岸田内閣の評価など内容はあいまいに。選挙区の票差と比例区の票差に課題が残った。地域組織の問題だが、会津若松では非議員の党員を役員に入れることができた。こちらが持ち込むことが必要だ。

●質問への回答

吉田忠智（参院議員）

最初は私たちにとって違和感のある内容だったが、私から「平和憲法に基づいて」という文言の挿入を要請した。近藤昭一衆院議員から「外交努力をもっと前面に打ち出すべき」との意見が出され、修正・挿入された経過がある。



吉川はじめ（衆院議員）

縦長で青い「生活安全保障」リーフレットは作成経過や責任の所在について常幹でも議論になった。公約もどこでどのような流れで決定されるか不明確な部分がある。いきなり会議の場で提案され、気づいた範囲で修正させたという経過がある。政策の中味とともに議論や作成過程も明らかとなるよう努力したい。

●統一自治体選の決意

山口薫（東京都・新宿区議会議員選挙）



福島みずほ参議院議員の秘書として働いてきました。皆さんには今日久しぶりにお会いしましたが、お世話になった方、ご無沙汰している方にあらためてお礼を申し上げます。7月25日に事務所を辞め離党し、その後

立憲民主党に入党し先月8月31日の都連常幹で公認が決定されました。

8期務めた河野達男区議の後継として、経験を引き継ぎ頑張りたいと決意しています。父親には目の障があり、高田馬場にある事務所まで働いてきたこともあり、新宿区はなじみの深い街です。障がい者や外国

人、LGBTなど弱者の方々や差別問題にも取り組みたいと思います。お知り合いの方がおられればぜひご紹介下さい。全力で頑張ります。

●まとめ

高田良徳（代表・香川県議）

一点目は支部組織の確立の問題。社民には支部組織があつたが立憲はそうではない。地に足をつけた活動をするためには組織が必要で、島根の実践に学んでいく。こうした努力が議員党的体質から脱皮していくことにつながる。

二点目は政策の問題。私たちの政策がどれだけ反映されているかが課題だ。各県でフォーラム会員が立憲の役員になってきており、押し上げていくことが求められる。議員では年に数回研修会が開かれており、積極的に参加しアピールすることが必要だ。全体でもっと努力して統一自治体選での勝利を勝ちとろう。

下半期の活動方針について

社会民主主義フォーラムは9月4日（日）午前、運営委員会を開催し、下半期の活動計画を協議しました。

（１）労働組合との懇談会

臨時国会の対決点や課題の共有、労組の政策課題の前進に向け、臨時国会の開催に合わせて今年度2回目となる労働組合との懇談会を開催します。

（２）平和フォーラムとの意見交換会

秋の様々な大衆運動への参加と共に立憲民主党との関係強化の課題、中央・地方での連携強化の課題など、平和フォーラムとの意見交換会を行います。

（３）政治セミナーの開催

臨時国会の期間中（10月～12月）に3回程度政治セミナーを開催し、政治課題や大衆運動課題、統一自治体選に向けた課題、社会民主主義の理論などを学び合います。

（４）「ブロック連絡会」（仮称）設立に向けて

少なくない県で自治体議員が立憲民主党に入党し県連の役員を担っています。社会民主主義フォーラムの各県組織と連携を強め、当面意見交換を行い党強化の課題などについて問題意識を共有し「連絡会」（仮称）を目指します。

（５）全国交流会の開催

各都県フォーラムの活動交流や立憲民主党の組織強化の取り組み、統一自治体選への決意を固めあうため、12月中旬をめぐり全国交流会を開催します。

（６）統一自治体選挙に向けて

支援労組との連携を強めるとともに、党の各都県連での公募や候補者セミナーなどと連携し候補者擁立を進め、全員の当選と党勢拡大を目指します。そのため各都県へのアンケート活動に取り組みます。

（７）情報発信の努力（略）

（８）組織調査と財政活動（略）